

ぜっ校長!

第33号…「全校レク」楽しめた?
2019(令和元)年11月22日(金)
稲羽中学校 校長 江口 雅明

☆「終わりよければすべてよし」? ~教えない大人と学ばない子ども~

▼『内外教育』(時事通信社発行)におもしろい?記事が掲載されていましたので紹介します。NPO法人が「子どもの“生活技術”に関する(判定員の目の前で子どもに実演させる方法での)調査」の結果を公表しました。

①「卵を正しく割ることができるか?」⇒「卵を何かの平らな面に打ち付けて、その割れ目を手前または下にし、そこに親指をあて、黄身をこわさずに割る」のが正しい“生活技術”なのだそうです。その結果、正しくできた子どもの割合は、中学生が74.9%、高校生が75.1%だったそうです。



②「タオルを正しく絞ることができるか?」⇒「竹刀を握る要領でねじる。その時、手前にくる手は左右どちらでも構わない。手のひらを上に向けて握り、左右の手を逆方向にねじる。絞り終わると、手の甲が上にくる」という“縦絞り”が正しい“生活技術”なのだそうです。結果は、中学生が18.2%、高校生が17.1%で、ほとんどが体育の鉄棒のようにタオルと体が平行になるように順手で握ってねじるという“横絞り”だったそうです。

▼この記事を書いた記者は、結論の中で「子どもたちの“生活技術”が低下しているのは事実」と言っていますが、私は「?」と思いました。「卵の殻が混じったり、黄身が壊れたりしなければいいじゃん」とか、「タオルがちゃんと絞られれば、“縦”だろうが“横”だろうがいいじゃん」と思ってしまう私は、ダメな日本人なののでしょうか? 確かに、幼い頃に、箸の持ち方や「みそ汁は右、ごはんは左」などという躰(しつけ)を親から受けてきましたから、それなりの“作法”には自信があります。つまり、「日本人としての“誇り”を持ち続けよ!」ということなのかも知れません。日本の“生活様式”も時代の流れによって大きく変化し続けています。それでも「教える大人」でなければならないのでしょうね。大人が教えなければ、子どもは学びません。▼さて、(保護者の皆様には失礼な言い方になりますが)保護者と生徒に教えなければならないことがあります。右下の写真は、本校の職員室の廊下に設置してある公衆電話です。ダイヤル式のピンク電話は、なかなかレトロなもので、私は気に入っています。ダイヤル式の電話をまったく知らない生徒は、指を穴の中に入れて押したりして奮闘しています。もちろん、生徒から質問されれば電話のかけ方を教えます。生徒も学びます。ところが、忘れ物をしたのか、帰りのお迎えをお願いしたいのか、保護者(または祖父母など)の携帯電話?にかける生徒がいます。それは別にいいのです。問題は、つながらないと電話を切って、そのままにしておくことです。携帯電話?に残された着信記録を見た保護者(または祖父母など)が電話を折り返してきます。職員室の廊下に電話の呼び出し音が響きます。生徒が下校した後や深夜に、また土日などの休業日も電話が鳴ることがあります。しかし、学校(職員)からかけた電話でもありませんし、不審電話のおそれもありますから、生徒はもちろん職員も出ません。保護者の皆様と生徒の皆さんに教えます。

058(383)3327は、学校の公衆電話の番号です! 「おかけになった電話番号は現在使われおりま…すが、公衆電話です。誰も出ませんので、お気を付けください!」

